

石川町資源調査調書

通し番号	77	整理番号	7 - 001	作成	平成19年2月
名称	髪 ^ア 櫛 ^イ 上げの石			項目	石造・記念碑
管理	住所	石川町字猫啼地内			
	連絡先	TEL 0247-26-1131			
	管理者及び所有者	猫啼温泉「井筒屋」			
概要	<p>和泉式部が京の都に上るとき、この猫啼の地で足をとめ、傍らに湧き出る泉に櫛をひたし髪などをけずり、しばし旅の疲れを癒したという。その際、櫛を置いたと伝わる石である。また式部は愛猫をこの地に置き去り、猫が式部を偲んで三日三晩啼きさげんだので「猫啼」の地名が生まれたともいわれる。</p>				
参考文献	和泉式部の里を訪ねて（観光パンフレット） 石川町ホームページ http://www.town.ishikawa.fukushima.jp				
関連項目	和泉式部（8-002） 猫啼温泉（12-003）				
備考					
写真及び位置図等					
					
全景			位置図		

石川町資源調査調書

通し番号	78	整理番号	7 - 002	作成	平成19年2月
名称	マガキセキソウトウバケン 曲木石造塔婆群			項目	石造・記念碑
管理	住所	石川町大字曲木字坂ノ下81-2			
	連絡先	文化振興係 TEL 0247-26-9137			
	管理者及び所有者	光国寺			
概要	<p>本塔婆群は字坂ノ下の共同墓地にあり、14基で構成されている。</p> <p>石造塔婆は、一般的に「板碑」とも呼ばれ、鎌倉に武家政権が樹立されてから関東地方に新しい造塔供養観が育ち、石造塔婆が発生して全国的に流行したといわれている。造立の目的は死者への追善供養ですが、中には生前に後生を願う(逆修)ために造立されたものもある。本塔婆群中のものはすべて、頭部が三角状をなし、その下部には二条の切込線が正面と左右に彫り込まれ、切込線の下部は平滑に磨き出され、ここで一段と彫り下げられ、大きく平な部分を作り出し、仏を表す種子(梵字)が彫られている。</p> <p>この曲木石造塔婆群は紀年銘、趣旨、願文など、豊富な銘文があり石川町の中世史解明に、欠くことのできない貴重なものである。</p> <p>平成8年6月1日 町指定文化財に指定</p>				
参考文献	ビジュアル石川町の歴史～石川町史別巻～ 石川町の文化財(石川町教育委員会) 石川町史 第6巻				
関連項目	光国寺(3-005)				
備考					
写真及び位置図等					
					
塔 婆			位置図		

石川町資源調査調書

通し番号	79	整理番号	7	-	003	作成	平成19年2月
名称	アンヨウジ セキゾウトウガ 安養寺の石造塔婆				項目	石造・記念碑	
管理	住所	石川町大字沢井字東内打305					
	連絡先	文化振興係 TEL 0247-26-9137					
	管理者及び所有者	安養寺					
概要	<p>安養寺にある石造塔婆は、安山岩質凝灰岩製で碑面に彫られている仏の姿から、線彫阿弥陀三尊来迎塔婆と呼ばれ、碑面中央に来迎印を結び二重の頭光を負った阿弥陀如来立像が顔を前に傾けて立ち、踏み割り蓮座に乗っている。その右側膝の辺りからは蓮台を捧げ持った観音像を、左側に合掌する勢至像を、中尊と同じく二重の頭光のもとに並び立ちともに頭を傾けて右方を見つめている。弥陀の白毫から発する二条の光明は次第にその幅を広げて照らし、石面の右辺に至る。その光明の下に合掌跏坐する念仏行者像が、小さく陰刻されている。この形式は死者を極楽浄土の世界に導く姿を表している。</p> <p>この塔婆の特徴的なことは、浮彫と線彫の両形式が一体化した技法が用いられていることである。また阿弥陀如来像の上半身両側に「應長二年壬子 正月廿日」の紀年銘があり、應長の部分は、朱で彩色されている痕跡が残っている。應長2年（1312年）は鎌倉時代後期であり、中世の当地方の歴史を明かす上で貴重なものである。</p> <p>平成8年6月1日 町指定文化財に指定</p>						
参考文献	ビジュアル石川町の歴史～石川町史別巻～ 石川町の文化財（石川町教育委員会） 石川町史 第6巻						
関連項目	安養寺（3-001）						
備考							
写真及び位置図等							
							
石造塔婆				位置図			

石川町資源調査調書

通し番号	80	整理番号	7 - 004	作成	平成19年2月
名称	フグセキノウトウバ 和久石造塔婆			項目	石造・記念碑
管理	住所	石川町字和久299			
	連絡先	文化振興係 TEL 0247-26-9137			
	管理者及び所有者	鈴木健一			
概要	<p>ここにある石造塔婆には、線彫阿弥陀一尊・線彫阿弥陀三尊・浮彫阿弥陀一尊などの仏像が碑面に彫られている。線彫阿弥陀三尊来迎塔婆は、碑面中央の空間いっぱいに三尊像を刻み、頭光を彫り窪め、その中に頭部を陽刻し、弥陀の白毫から発する二条の光明が石の右端まで伸びている。この形式は死者を極楽浄土の世界に導く姿を表している。線彫阿弥陀一尊塔婆は、二条の切り込み線が三面を廻り、三尊来迎塔婆と同じ手法で阿弥陀如来が彫られ蓮座の上に立ち、全体に彩色が施されている。このような線彫りの技法は関東地方に多く見られる形式である。</p> <p>浮彫阿弥陀一尊塔婆は、阿弥陀如来坐像と蓮座が一体的に陽刻され、衣文と蓮座はともに線刻で表現されている。この形式は特に岩瀬地方に優れたものが多く見られる。三基とも安山岩質凝灰岩製で、石川町の仏像が彫られている塔婆は線彫が主流だが、この和久塔婆群の特徴は、浮彫と線彫の両方の形式が見られることである。いずれにせよ石川地方の中世史を明らかにする上で貴重な塔婆である。</p> <p>平成8年6月1日 町指定文化財に指定</p>				
参考文献	ビジュアル石川町の歴史～石川町史別巻～ 石川町の文化財（石川町教育委員会） 石川町史 第6巻				
関連項目					
備考					
写真及び位置図等					
					
石造塔婆			位置図		

石川町資源調査調書

通し番号	81	整理番号	7 - 005	作成	平成19年2月
名称	タテキソウゴリントウ 館石造五輪塔			項目	石造・記念碑
管理	住所	石川町大字沢井字館81			
	連絡先	TEL 0247-26-7534			
	管理者及び所有者	円谷真			
概要	<p>五輪塔のある丘陵一帯は中世の石川氏一族、沢井氏と関係のある沢井城跡である。沢井氏は鎌倉時代から歴史上に登場し、この五輪塔も沢井氏の造建によるものと推定されている。</p> <p>石造五輪塔は平安時代以来のわが国特有の石造建造物であり、最初追善のための供養塔として発生し室町時代以降墓石として一般化したといわれている。五輪塔の形態は下から地輪(方)・水輪(球)・火輪(三角)・風輪(半球)・空輪(宝球)が積み上げられている。</p> <p>この館五輪塔は、空・風輪は一石(後世の制作)、火・水・地輪は別石で組みあわせてある特徴的なことは火輪の軒反り、軒勾配、軒厚に古式五輪塔の面影が濃く残されている。また地輪も上部がせばまって、下部が広く扇状となるなど、古式五輪塔より崩れた形式の五輪塔に移行期の姿を示していることから、鎌倉時代末期から南北朝時代初期の造立と見られている。いずれにせよ中世における石川氏の仏教文化水準の高さを示しており、このような大型で古い形式を残している石造五輪塔は、町内では例がなく貴重なものである。</p> <p>平成8年6月1日 町指定文化財に指定</p>				
参考文献	ビジュアル石川町の歴史～石川町史別巻～ 石川町の文化財(石川町教育委員会) 石川町史 第6巻				
関連項目					
備考					
写真及び位置図等					
					
石造五輪塔			位置図		